

巻頭言

アトランティスの証明

アトランティスからの転生

会長 渡辺豊和

アトランティス一〇国が五つにグループわけされ二国が一对となって白などの一つの色、金などの一つの物質（原素）を目印としていた。というより色、物質別に分担していた。ケイシ―はアトランティス人は赤人だったというがこれもアトランティス領域の人々は赤を目印とさ

れていたというのであろう。日本を含む東アジア領域も赤であったからその領域と一部重なるアトランティス領域も赤だったのはケイシ―のリーディングが私の読取りと合致している。BC四〇〇〇年からBC二七〇〇年の間に世界全体で「アトランティス」の転生が次々に起こりエジプトで完璧に完成するのだ

が、二国一对のグループピングの痕跡も洪水伝説によって確かめられた。アトランティスの海没は文明の崩壊、即ち「死」でもあった。海没は洪水伝説として後世に伝えられたが一对の国ごとと酷似した洪水伝説を今も伝承しているのは注目すべきである。この一对が将来起こる「アトランティス」の転生の時、また対をなすべきとの啓示かもしれない。BC五〇〇〇年〜BC四〇〇〇年のものであるとされる「アニのパピルス」は前世がアトランティス時代のエジプト人アニがその前世であるアトランティス時代のエジプト人としてアトランティスに移住した記憶であろうか。それともBC一五〇〇年頃の成立ともいわれるのはアニはやはりその頃の人でBC五〇〇〇年〜BC四〇〇〇年に生存したエジプト人が転生していたのだろうか。そうならば「アニのパピルス」はアニに

生まれ変わった前世の人物の更に前世の記憶という事になる。ともあれエジプト文明はアトランティス文明の完全な転生であったから「アニのパピルス」などの完璧なアトランティス物語も成立出来たに違いない。転生は一人だけ孤独に行われるばかりではなさそうである。時と場合によっては現世で集団だった人々は全員一抛に転生する事もありうるらしい。但しその場合、精々数年の間にある決った場所に多数の妊婦を必要としその多数の妊婦がそれぞれ生まれ変わりを生む事になる。文明の転生は数代に亘って集団が転生する必要があるのでない。この集団の転生をうながすが神なのではないか。人間が地球の遺伝子ならば神は遺伝情報として地球外からもたらされる。モーゼやキリスト、マホメットなど卓越した予言者はアトランティス文明を転生させる為に神がこの

世に遣わした使節だったかもしれない。モーゼの後にイスラエル、キリストの後にローマ、マホメットの後にサラセンと高度な文化国家が出現し繁栄した。これらの国々はアトランティスの転生だったのか。しかしこれらの国々よりもインドの釈迦の後に出現したアシヨカ王のインド、マウリア王朝の方がよりアトランティスの色彩の濃い転生だった。ともあれBC一三世紀のモーゼ、BC五世紀の釈迦、一世紀のキリスト、七世紀のマホメッドまでは神々はアトランティスの転生をアトランティス霊魂に要請し実現させていた。この後アトランティス霊魂はチベットに集まりここで転生する事を望んだらしい。これも地球外情報としての神々の意志である。チベットのラマ教が中国の圧迫によって衰退している今日アトランティス霊魂は何処に転生の場所を選ぶのであろうか。

利己的遺伝子人間の利己主義も極限まで膨張してしまった。こうなっては神々はアトランティスの転生をあきらめ霊魂を別の星に誘導し人類とは違った形で宇宙の一角に「文明」を顕現させるのであろうか。更にもう一つ付け加えておく。ホピの祭で現在も行われているものの中に地球全体と人間は同じ構成となっていてそれぞれ七つの世界を有している事を示す儀式があるという。これはインドの身体宇宙には七つの世界（チャクラ）があるのと全く同じである。マヤはホピと同族の文明であるからここにインドからやって来た一団があつてそれがホピにまでインドの人体図式を伝えていた事を示してはいまいか。

「聖書」の予言

アトランティスの夢通信網はアトランティスが海没してからも何度か修復された。これが充分機能している間は世界は天災からのがれ人々は幸福を享受できた。

しかしハトシェプスト女王時代の大修築が最後、これ以降は次第に老朽化しいつしかその存在は忘れられていった。アトランティス文明隆盛時代こそ人類は楽園にあつたが海没したからといって人類はそのまま楽園を失ってしまったわけではない。

夢通信網の修築ごとに楽園は蘇った。ところがアトランティス時代は勿論のこと、BC一三〇〇年代初頭のハトシェプスト女王の時代ですらこの楽園から阻害されている民族があつた。何せエジプトでは奴婢として酷使されていたから当然ではあるがそれはイスラエルの民、すなわち祖国を失ったユダヤ人である。

彼らはその恨みを「聖書」にぶっつけ予言の形でそれを晴そうとした。

「聖書」ではイスラエルの民は将来も他民族の迫害を受け続け何千年かの中には最終戦争（ハルマゲドン）が起りイスラエルは見るも無惨に破壊しつくされ人々も三分の二は死んでしまふ。もはや全滅かと思われたとき天からメシアがやってきて敵を徹底的に撃破し残った民を救う。

ここに残ったものこそ神が選んだ民である。終末戦争とメシアの来臨を予言したものととしてはBC五〇〇年頃のエゼキエルとダニエルがいる。

二人ともイスラエルの北と東から敵がやってくるといつている。とくにエゼキエルは明確に戦争の様相を予言している。敵はロシア、さらにペルシアなどの東の国々。戦争には四枚の翼と四本の車輪つき足がある金属

のピカピカ光る怪鳥が大活躍するといっている。ヘリコプターを思わせるがとにかく空中からイスラエルを核兵器か細菌爆弾で攻撃してきて大地は炸裂し、太陽は天を覆う粉塵で隠れ昼でも闇と化す。まるで現代の科学兵器による戦争、というよりもそれ以上に技術進化した核と細菌による戦争模様を克明に描写している。まるで眼前にしていると思えない迫真性がある。

ダニエルは終末戦争の時期を明示していてそれを聖書学の知識で計算すると一九九九年七月頃となるらしい。

これがノストラダムスの世界終末予言の根拠だったわけである。

BC二〇〇年頃はゼカリヤがいてイスラエルに再び建国したとき世界の終末がやってくるとしている。ということは一九四八年にイスラエル建国があったから二〇世紀後半でありダニエ

ルの予言とも重なる。

ここでも無残な戦争の様相が描写されている。次がキリストである。最終戦争のとき自分は天から再臨し、神に選ばれた少数のものを救うと明言している。

最後はAD九〇年頃の人、ヨハネ。彼はユーフラティス川のほとりにつながれていた四人の天使が人間の三分の一を殺すためにとき放たれ最終戦がはじまり、大破局がやってくる。これは避けられないのである。

五人の予言者は最終戦で人類は破局に面するといいい戦争の惨状を核戦争さながらに描写している。勿論空中からの攻撃もいかにともさもありなんとばかりの現実性がある。まるで実際に見ているようである。興味があったら旧約、新約をじかに読んでほしい。旧約の三人はそれぞれの名前の「書」となっているしキリストはルカとマタイ福音書、ヨハネは黙示録である。

五人に共通するのは神を信じる選民のみが救われればいいのであってそれ以外の大多数九九パーセントの人類は滅亡しても構わないとしていることである。彼らにはすさまじい怨念が渦巻いている。余程樂園から疎外されたのがくやしかったのに違いない。

このことを証明する古文書がエジプトで一九四五年に発見されている。

何故予言は成就されな

かったか

ナグ・ハマデイ写本といいいジプト、カイロ近郊の洞窟からみつかった初期キリスト教文書で四世紀初頭までのものとされる。これにアダムとイヴが蛇にだまされるエデンの園のことが

でてくるが話は逆になっている。蛇にだまされ禁断の木の実を食べたから人類は死すべき存在になり樂園を追放されてしまうのが旧約聖書である。ところがこの写本では蛇にすすめられて木の実を食べたら不死の存在となり宇宙の原理森羅万象のことわりを悟る。これに嫉妬した神が樂園から二人を追放してしまうというのである。

樂園の木の実は夢通信の技術の習得だったはずである。人間は光を獲得しつつあったといっているからだ。蛇はアトランテイスの王、蛇を王冠に飾るオシリスに違いない。

ところがイスラエルの民の神ヤハウェは嫉妬し樂園から人類を追放したつもりが追放されたのはイスラエルの民のみであったというわけである。

ヤハウェは嫉妬する暗黒世界の支配者であった。それでも夢通信網が充分機能を果たしてい

る間は支配できた人々は亡国の民イスラエル人だけでありBC一三〇〇年代まではその支配領域は増えはしなかった。それで神は選民以外の人類滅亡の緻密な計画を立てた。旧約聖書にはその計画にそって着々と事を行わせているモーゼをはじめとするイスラエルの民の姿が描かれている。また終末とメシアの来臨の様子までも代々の予言者のコトバとして描いている。AD一五〇〇年代半ばの人ノストラダムスはこんな伝統的ユダヤ人の予言者の最後の人物であつたらしい。

しかし彼の予言は成就しなかった。ところが一九九九年七月人類破局はなかつたがそれ以外の予言はことごとく当たっているとのことである。フランス革命は詳細までもさらにナポレオンもヒットラーも第二次世界大戦も正確に当てている。それなのにノストラダムスを含め代々のユ

ダヤ予言者達が一致していたはずの最高位の予言は当らなかつた。何故なのか。

それは神の「計画」だからではないか。

一九九九年七月の破局に向かつて時間は間断なく進む。その間に起る種々様々な事件は全て神の予定の中にある。この場合時間は過去、現在さらに未来へと一直線に進行するだけである。未来の特定の時間に特定の出来事が必ず生起する。これが神の意志であり計画のプログラムなのである。

これは夢通信技術を習得し平和を享受した人々の世界では通用しない。夢通信世界では事件は時時刻々と変容しそれがどう収束するかは誰にもわからない。しかし地球医療効果を確信する人々にとつて結局世界は平穏となる。これは長い経験が教えてくれる。夢通信による地球医療も神にゆだねるのではない。

人々の普段の努力を準備があれどばこそ天災克服も成功するのである。神は一人かもしれない。しかしそれは何事かを人々に強制する存在ではない。一神がたとえば針に宿る微小神にまで無限に分割され記号化される日本の神が針を通してそれを使う人に幸福をもたらす。神と人とはそんな関係なのだ。世界に限なく張り巡らされた夢通信網の交点にはそんな神々が宿っている。勿論針に宿る神よりは圧倒的に強力には違いない。それでも交点は数万はあろう。ということでは数万の神々が人々の幸福を願っているということである。

この数万の神は唯一神の分割神ではあつても唯一神に支配されているわけではない。孫悟空の無数の分身と同様この神々は唯一神の分身であり唯一神の意志は体現しても分割された分の力しか持ち合わせない。

各交点のシャーマンが交信し

合つてこそ、そこそこに宿る神々が合力して強力になるにすぎない。ただ夢通信網が機能しなくなつて世界はどうなつたのか。

夢通信網は天災克服の装置であり火金土木水の五行と地震や台風等の天災すなわち地球の病気が対応するがこれが機能を果たさなくなるにつれて人間は自分たちの力を信じるようになった。

特に中国と西ヨーロッパにそれが顕著であつた。BC一〇〇〇年以降のことである。

「計画」組織はない

中国は治山治水に成功し巨大

王国周を成立させた。要は夢通信網にたよらずに人力で天災を克服できると信じたのである。

ピークは秦漢時代、BC二〇〇年から〇年で万里の長城造営や何千キロにもなる黄河から長江までの大運河開削をした時期である。周時代以後の治山治水は黄河、長江などの大河の洪水を防ぐために行われ農耕に関わる善政の象徴だったがそれによって土木技術が長足の進歩をとげた。

秦の始皇帝や漢の皇帝たちはそれを自分の権力拡張のために使用した。万里の長城は外敵の侵入を防ぐためとはいえ明らかに軍事目的だし大運河は皇帝の行幸が行われ易くし支配を強固にするためであった。

それでも中国では漢方医学、易占、風水術などのアトランテイス科学を残存させおおいに活用したからまだいい。

西ヨーロッパではキリストが

誕生した頃からローマ帝国が強大となりここでも土木技術が驚くほどの発達をみせた。勿論それはローマ皇帝の首都ローマや貴族たちの支配地の都市を壮大に劇的に構成するための技術であった。山を削り河の流れを変えてまで宮殿をつくり自然風景を徹底的に人工化していった。

ここではアトランテイス科学全く忘れられていった。徹底的に人力の優越を過信したはずのローマ帝国はどういうわけかキリスト教を受容し国教としてしまった。ローマ帝国はヨーロッパ全土を支配下にするほどの広大な国土、キリスト教はヨーロッパ全土を席卷したのはいうまでもない。

中国はアトランテイス科学、すなわちアトランテイス夢文明を残存させたから人力過信にも常に反省が求められた。道教、仏教が人力過信を抑制する役割を担った。

これに反してヨーロッパ、特に西ヨーロッパは夢から覚醒したといえなきこえがいいが余りに現実重視にかたむいたため人間存在が頼りなく感じたためであろう。唯一絶対の超越神に自分たちの運命をまるごとゆだねてしまった。

しかしこの神はねたみ深い。果たしてかつての異教徒を本当に受け入れるであろうか。

終末戦争の末に再臨するキリスト。これに救われる選民となれるかどうか。ヨーロッパの人々は深刻な問題を抱えたといえる。

ルネッサンス以降超越神から徐々に自由となり一九世紀の産業革命によってえた高度科学技術文明とそれ以後の驚異の発展で人間は何でもできる、ことと次第によっては宇宙すら改変できると信じはじめた。ここ二〇〇年で一抛に超越神の束縛から解放されたとみえる。

しかし二〇〇〇年に及ぶトラウマはそう簡単には消えないらしい。

グラハム・ハンコック『天の鏡』(大地舞訳・翔泳社)はエジプト・ギザの三大ピラミッドとスフィンクスがみせるオリオン・ミステリーに加えカンボジアのアンコールワットなどの七二の建築群がBC一〇五〇年の竜座の状態を地上に写しとっているとする。ギザでは一〇五〇〇年の獅子座とオリオン三星だった。ギザとアンコールでは経度七二度の差でありこの七二度に意味があるとのこと。それはそうだろう。経度七二度分は地球結晶正一二面体による分割線を示しているからである。だからアンコールを通る経線は夢通信にとって重要なのである。それはともあれBC一〇五〇〇年は二〇〇〇年からすれば二五〇〇年で地球の地軸の回転、歳差運動一周期二五〇〇〇年の

半分でありBC一〇五〇年当時の人々が歳差運動のことを熟知して後世に何らかのメッセージを残したのではないか。

ギザはBC二五〇〇年、アンコールはAD一一五〇年に建造されている。大きく時代を隔て同じBC一〇五〇〇年時の夜の天空を地上に写しだした理由は何なのか。

失われた霊的文明。どうもアトランティスのことらしい。その文明が後世の人々に地球の危機か何かの重大なメッセージを残している証拠でありかつそれを伝える組織が現代でもあり人々の眼からは隠されている。これがハンコックのいいたいことらしい。

危機に際して救うべき人々がいる。これはこの組織の目的であると明言している。

彼は予言者。まるでキリストを含めた「聖書」の予言者を思わせる。この本は一九九九年以

前に書かれているからノストラダムス予言の補強をねらっていたのかもしれない。ただし正当派キリスト教とは逆立場のグノーシス文書を引用したりしているから自分は「聖書」すら超越しているといったげではある。

しかしノストラダムスの予言は当らなかった。多分ハンコックの思わせ振り予言も当ってはいまい。それでもギザとアンコールに対する発見は消えるわけではない。

間違いなくアトランティス夢文明を伝えた人々、私のいうアトランティス遺民は存在した。ハンコックの指摘通りAD一五〇〇年のカンボジアは王はその一人だった。

しかし彼は組織の一員などではありえない。彼はBC一〇五〇〇年時代にもどることができたのだ。それは多分アトランティス文明の最盛期だった。それから一〇〇〇年してアトランテ

イス島は海没してしまった。カンボジア王はまさに人類の黄金時代を追想したのである。

人類はどこまで存在し続けられるのかはわからない。しかし危機を迎えたらアトランティスの夢文明にもどればいい。これを伝えるのがアトランティス遺民の使命である。しかしそれは選民ではない。私でありあなた、誰でもアトランティス遺民なのである。ただ異常なほどの夢能力にすぐれている必要がある。

これも訓練によって習得できる。アトランティスの人々の時間は循環したり枝別れるものだった。現代物理学でようやく発見した「時間」を彼らは日常感覚で十全に受容していた。時間は過去、現在、未来と一直線でないことぐらい熟知していたのである。だから夢の中で一二五〇〇年の未来にタイムスリップすることもできた。

同じ能力でも「聖書」の予言

者は核戦争の現場にしか立ち会えなかったに違いない。ねたみの神ヤハウエがそうしたので。それで不信心者を恐怖に陥れてしまった。誠もって哀れ。

了